

京都百貨店解体

■ コンセプト

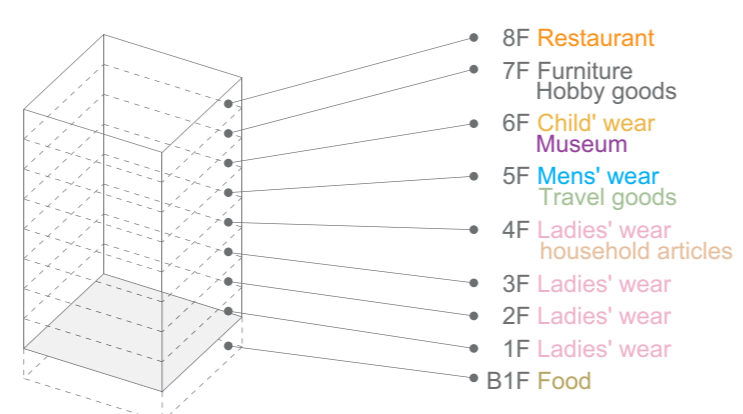
戦後からの「拡大・成長」
 その代償として、都市は固有性を失った。
 どこでも駅前には均一な風景が広がり、場所のコンテキストを無視した再開発が行われている。
 人口減少時代では、空き地・駐車場の増加や、外国人の受け入れなど、都市を巡る状況は大きく変化するだろう。
 このような変化に対応した上で魅力的なまちを築いていくためには、都市の固有性を取り戻す必要があるのではないだろうか。

京都は通りの文化によって、発展したまちである。
 通りが生活の一部となったことで、通りは場所によって異なる性格を持ち、豊かな回遊性を持つ場となった。
 しかし、日常生活の中に自動車が進出したこと、百貨店というオールマイティなビルディングタイプによって、京都は一つの固有性である回遊性を失いつつある。
 そこで京都の回遊性を取り戻すために、百貨店をコインパーキングに展開させる手法を提案する。
 つまり、これまでの百貨店に集約されていたアクティビティをまちの中に紐解いてやることで、回遊性を取り戻すことができるとともに、人口減少時代に対応した魅力的なまちを築いていくことができるのではないだろうか。

■ 「通りの文化」を崩壊させる3つの要素

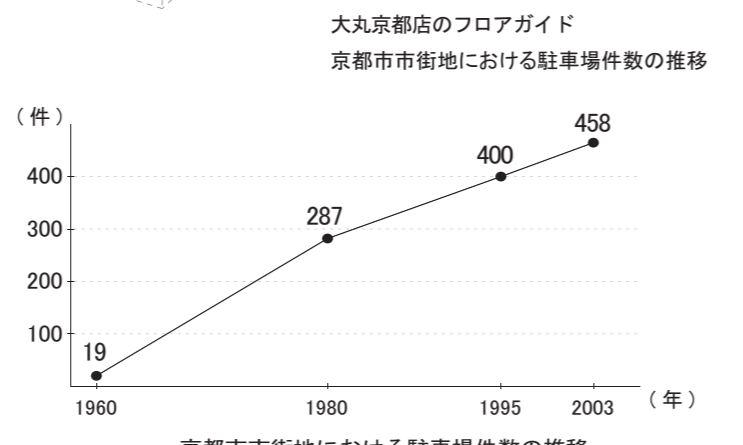
1. デパートの形態的特性

百貨店は多分野・多世代に渡ってオールマイティな商品展開が行われている。つまり、まちと全く関わり持たずに、百貨店のみで一日を過ごすことができるため、まちの回遊性を損なう原因となっている。



2. コインパーキング

京都の「アン」の部分にはコインパーキングが数多く存在する。それはデパートなど商業空間に行くために用いられることが多い。そして、駐車場の増えることでさらに車が増加し、より歩きづらくなっている。

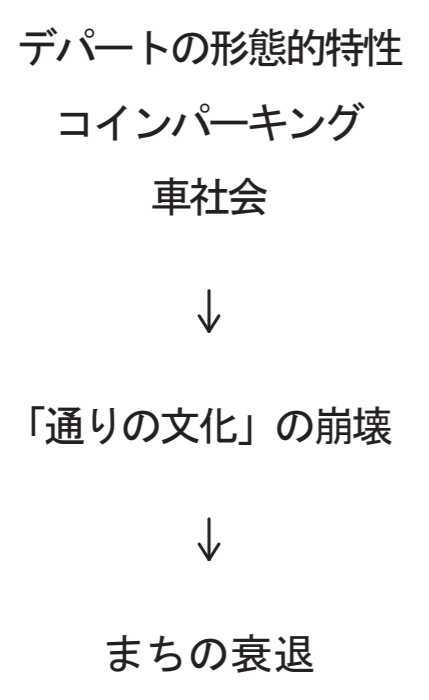


3. 車社会

京都において、四条通りや御池通りなどの幹線道路を除く通りは狭い道である。しかし、日常生活の中に自動車が進出し、狭い通りにも車が溢れるようになったため、通りは歩きづら環境となってしまった。



■ 対象敷地



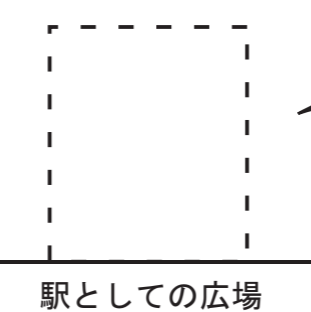
■ 大丸京都店を解体する

具体的手法として、大丸京都店を解体する。京都を蝕むコインパーキングに百貨店を展開させることで、かつての「通りの文化」を再生し、街は平面的に賑わいを取り戻す。大丸跡地は「駅」としての機能を持つ広場へ、コインパーキングは都市の延長として店舗へと変わる。



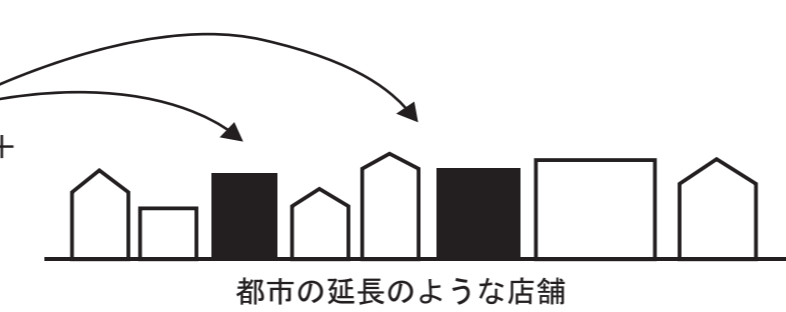
大丸京都店

Gate Station



駅としての広場

Attractive Circulation



都市の延長のような店舗

■ ペロタクシーについて

対象敷地内を走るローカルな交通システム。人を主なエネルギー源として走る環境にやさしい電動自転車。ペロタクシーの運営・維持費は広告掲出費から補われる。



Gate Station



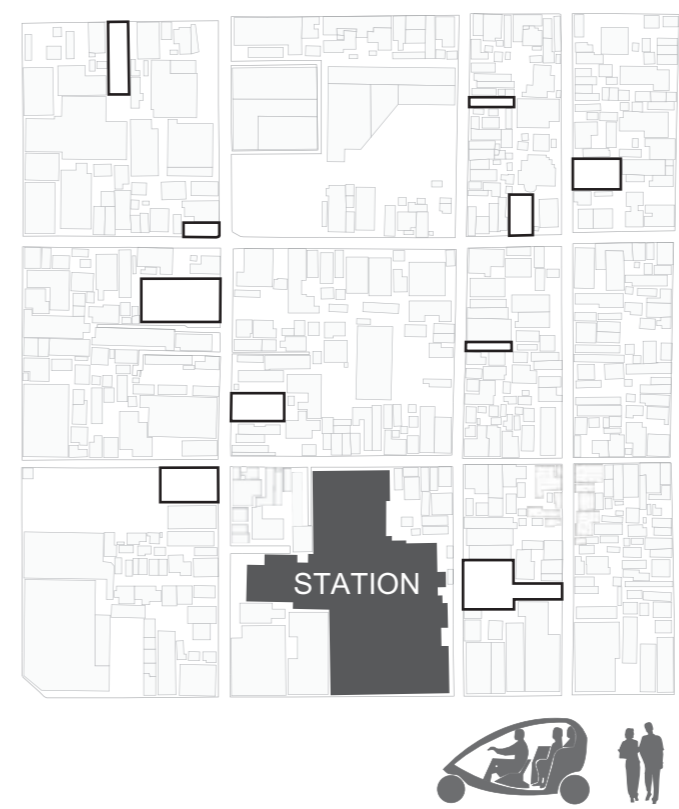
1. 駐車場 (ペロタクシー)
2. 事務室
3. 運転手研修所
4. イベント広場
5. インフォメーションセンター
6. 休養所
7. レンタサイクル

function 1 駅としての役割

百貨店を対象敷地のコインパーキングに散りばめることで駐車場はなくなり、「アン」は車が入らない場所となる。車の代わりに交通手段としてペロタクシーを用いると同時に、大丸京都店の跡地はペロタクシーの拠点となる。



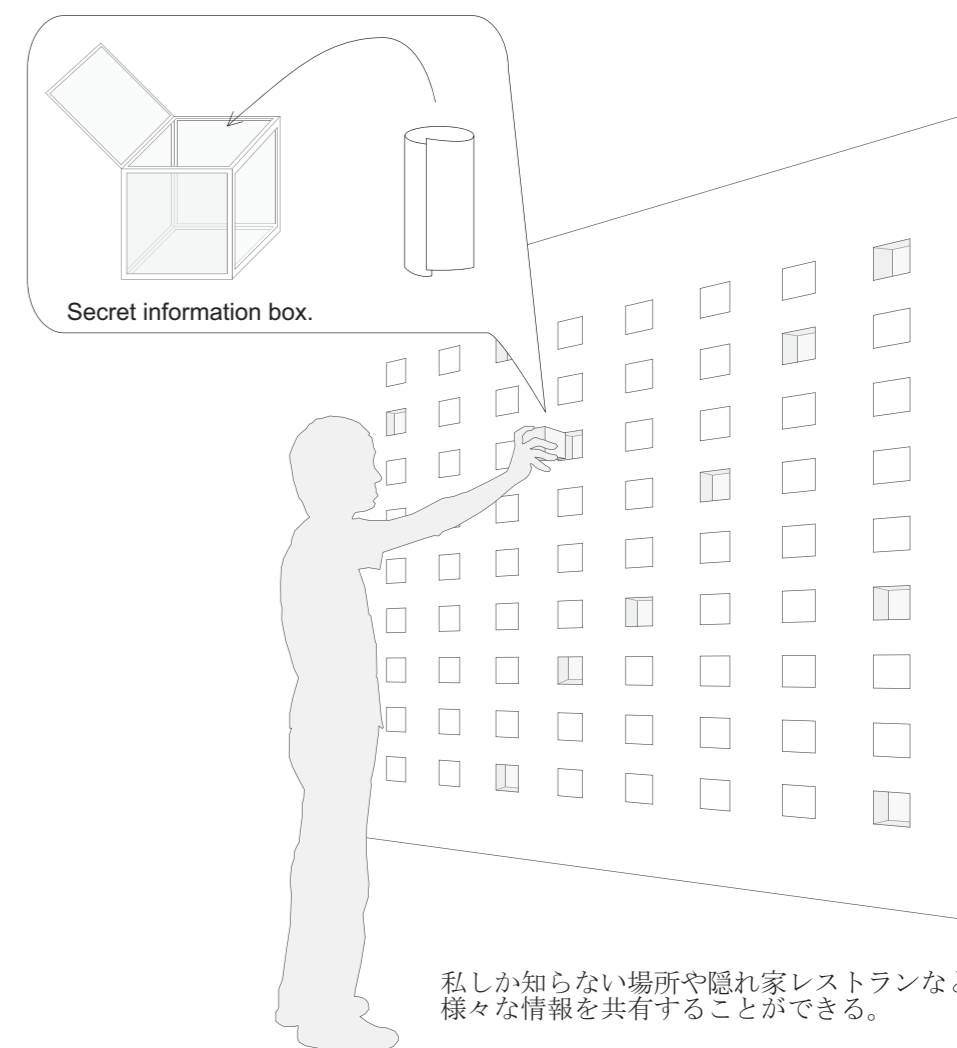
現在の大丸京都店とその周辺のコインパーキング。主要交通は車であるため、歩きにくい環境にある。



大丸京都店は解体され、ペロタクシーの駅となる。そして、駅を拠点としたまちの散策が可能となり、主要交通が車からペロタクシーと徒歩へと変わる。

function 2 ゲートとしての役割

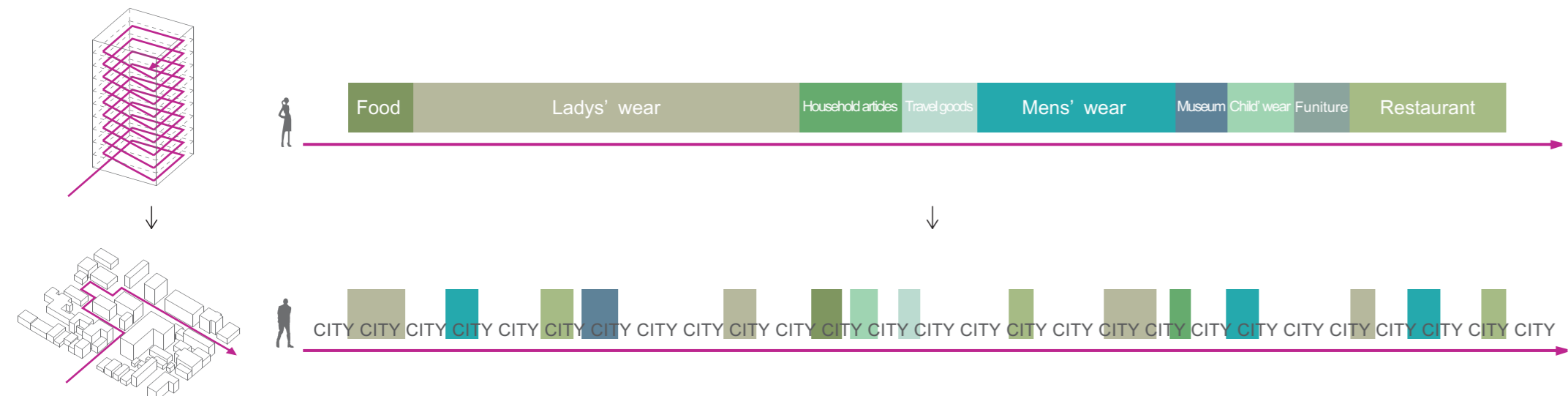
Gate Stationは、まちに点在した百貨店のゲートとしての役割も持っている。ここでは情報の収集ができるため、まちを散策するためのスタート地点となる。



私しか知らない場所や隠れ家レストランなど、様々な情報を共有することができる。

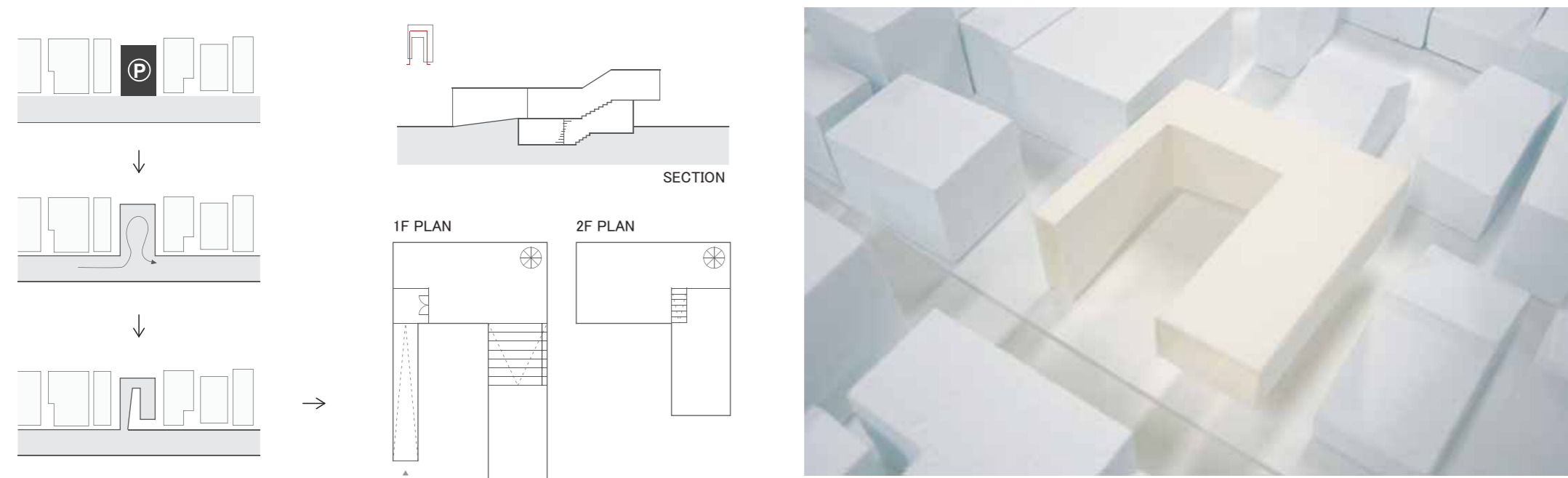
Attractive Circulation

百貨店の完結したサーキュレーションを紐解き、まちに Attractive Circulation を展開する。その最大のメリットは、買い物における目的と目的の間の移動時に都市が挿入されることにある。この移動のプロセスが様々な発見やドラマの源となる。

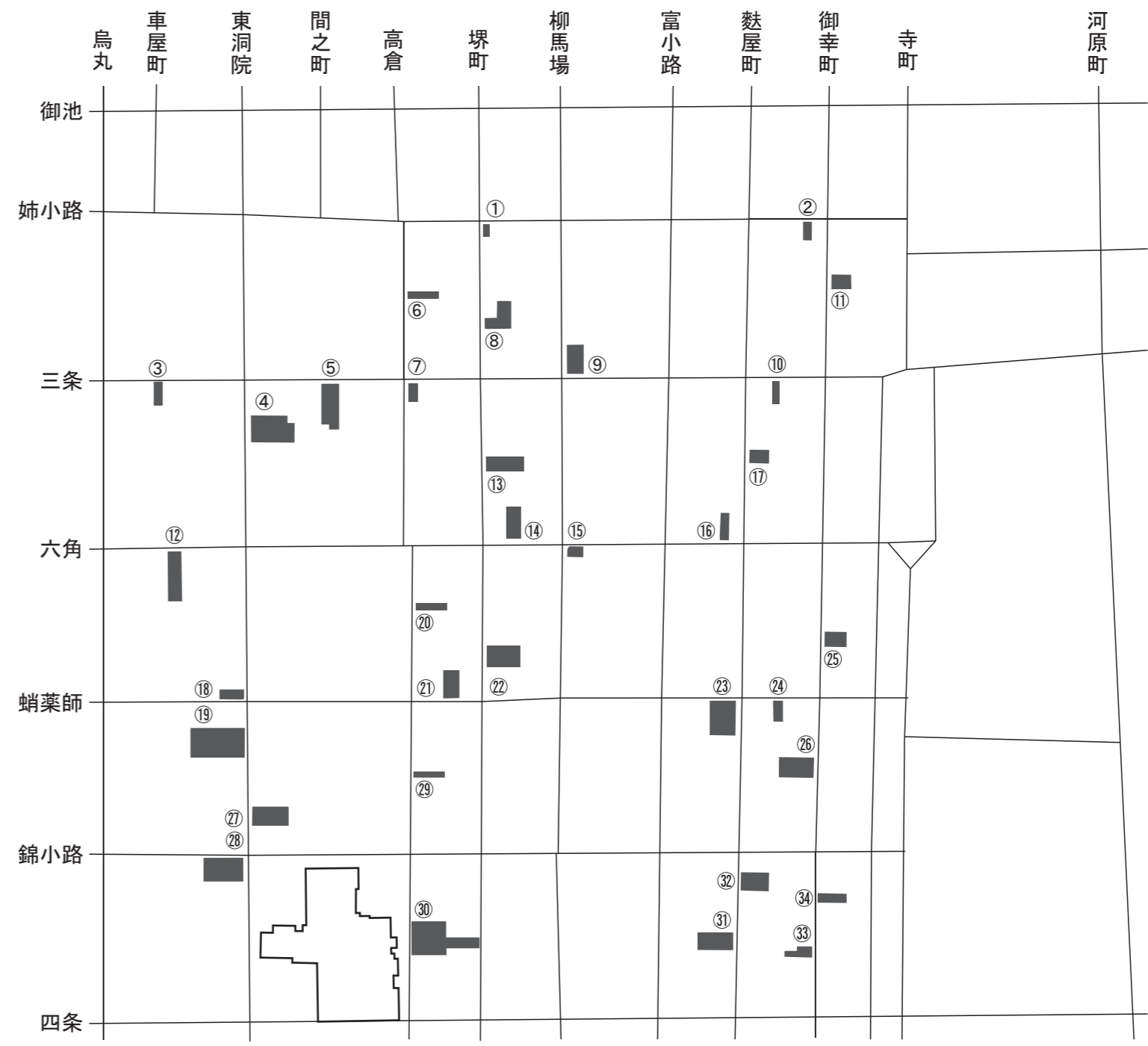


Attractive Circulation は以下の2つのルールで構成される。

1. 「通りを引き込む」という形態ルールであり、コインパーキングの多様な敷地形状に対応できる。
2. 対象敷地における機能の配置ルールであり、通りの特性（機能）によって決定される。



通りの文化による Attractive Circulation の機能配置



- ① 和菓子
- ② 京菓子
- ③ 紳士服
- ④ 雑貨
- ⑤ 婦人服
- ⑥ 家具
- ⑦ 婦人服
- ⑧ 呉服
- ⑨ 紳士服
- ⑩ 雑貨
- ⑪ 書籍
- ⑫ 着物
- ⑬ 土産
- ⑭ 土産
- ⑮ 土産
- ⑯ 紳士服
- ⑰ 湯葉料理
- ⑱ 陶芸
- ⑲ ギャラリー
- ⑳ 呉服
- ㉑ 婦人服
- ㉒ 婦人服
- ㉓ 紳士服
- ㉔ 靴
- ㉕ 子供服
- ㉖ 婦人服
- ㉗ 八百屋
- ㉘ 京料理
- ㉙ 居酒屋
- ㉚ 呉服屋
- ㉛ 居酒屋
- ㉜ 寿司
- ㉝ 紳士服
- ㉞ 京料理

■ 効果

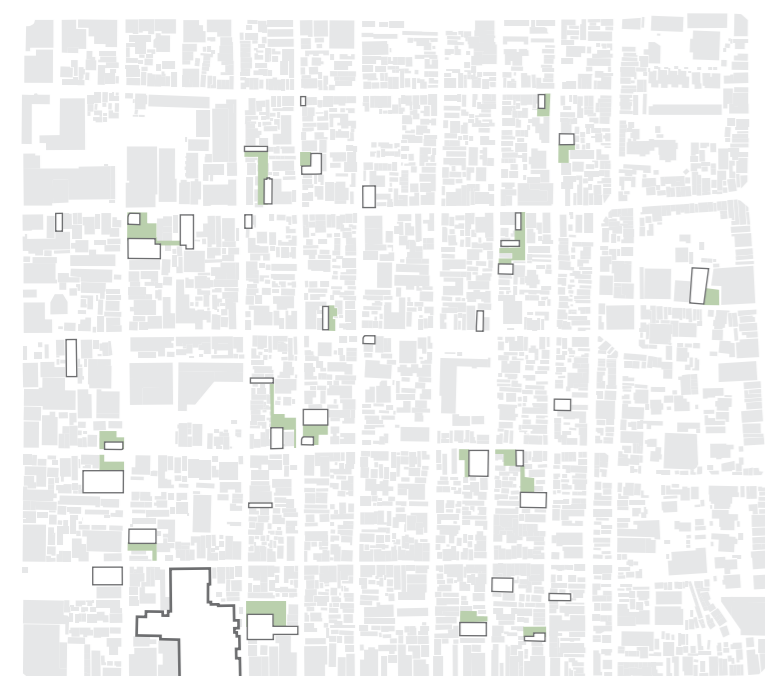
百貨店のサーキュレーションをまちに展開した結果、京都はかつての回遊性を取り戻すことができる。さらに、この計画は30年後の京都の都市計画においても重要な部分となる。Attractive Circulation やその周辺緑地が紡ぎ合い、ネットワーク化することで、今後増加していく空き地や駐車場に対応することができる。



2000



2010



2030

